



News Letter



白百合女子大学 発達臨床センター

Shirayuri College Clinical Center For Developmental Disorders

2023.02
vol.13

私たちはなぜマスクを外せないのか

本部 則雄

コロナ渦は一先ず、一段落しつつありますが、なぜか私たちはマスクを外しません。発達臨床センターに来る子どもがマスクを外そうものなら、母親からの叱責が飛び交ったりしています。これはここに限ったことではなく、とでもありふれた日常となっています。しかし、この現象は国際的に見れば、とても不思議且つ不可解です。結論を真っ先に書けば、私は「日本人はマスクが大好き」だからと思っています。さて、「なぜ好きなのか」、この理由について私なりの見解を述べてみましょう。

まず、このことを考える上で、日頃の臨床活動の経験から始めてみます。20年ほど前まで対人恐怖症は、精神科臨床の大きなテーマでした。これは視線恐怖、赤面恐怖なども含まれ、他人の前で些細な失敗経験などを契機にして、人前で症状が出ることを極度に恐れ、動悸や過呼吸などの不安症状に襲われたりするものです。この対人恐怖症は日本の文化に依拠した疾患とされ、英語表記は「Taijin Kyofusho」です。昨今の精神科臨床では対人恐怖症は臨床現場から殆ど姿を消したのですが、これはその症状によって自宅にひきこもってしまうからです。ひきこもりは大きな社会問題ですが、これも日本人にとっても多く、世界的に見ても、日本のひきこもりは突出しています。すでに古典となっていますが、ベネディクトは『菊と刀』の中で日本の文化を他者と同調的な空気を意識する「恥の文化」と指摘し、欧米の文化を自律的な良心を意識する「罪の文化」とその差異を論じました。この「恥」、恥ずかしさは、マスクで顔半分を隠すことによって緩和されるのではないかと思います。つまり、マスクは顔を隠すことができる私たちの「恥の文化」にフィットしているのでしょう。このマスクのお蔭で、今まで自宅にひきこもっていた人の中に、真夏でもマスクをしていることが許される状況で随分と症状が緩和された人もいました。

しかし、マスクは多くの人のコミュニケーションに弊害を起していることに疑いはありません。対人関係での相手の情報を理解する表情の半分という情報源が阻害され、多くの人は繊細なコミュニケーションに苦慮しています。極端な例ですが、重度の自閉症の子どもの中には、母親がマスクをするとパニックになり、母親のマスクを必死に外させようとしめます。これはなぜかと言えば、自閉症の子どもにとって、マスクで隠された部分を想像することができず、母親は顔の半分がなくなった怪物のように見えるからでしょう。これは表情がコミュニケーションの道具として使用されている極端な例ですが、マスクがこのまま継続して使用されるとすれば、多くの人の弊害になるようにも思います。対人関係では非言語コミュニケーションからの情報がとても重要です。マスクによって顔の中でも動きが大きい口元からの情報が失われ、相手の気持ちが読み取りづらく、行き違いが起りやすくなります。さらに、特に子どもたちへの影響は深刻です。最近、多くのマスクに関する研究があり、例えば、マスクをつけている人の顔とつけていない人の顔の画像を提示して、その顔の表情がどんな感情（喜怒哀楽など）なのかをという研究を行っています。マスクをしていない顔と比べ、顔の目から下がマスクで隠れている場合、幼い子どもは感情を読むことができず、大人の半分くらいしか正答できませんでした。つまり、特に子どもは顔の表情は重要な相手の気持ちを考えるリソースであり、この発達の遅れがどのようになるのか危惧されます。

個人的には、マスクはコミュニケーションの情報を奪取し、子どもたちへの危惧もあり、早急にマスクから解放されたいと思っています。しかし、マスクは私たちの文化にフィットしたアイテムとして、これからも君臨するのかもしれない。

ディスレクシア(発達性読み書き障害)

涌井 恵

1. ディスレクシア(発達性読み書き障害)とは？

日本でもヒットした映画「シンドラーのリスト」や「ジュラシック・パーク」「インディ・ジョーンズ」シリーズなどの監督作品で知られる、スピルバーグ氏は、自身がディスレクシア(発達性読み書き障害)であることを公表しています。また、教室では皆の前で教科書を読むことがつらかったとも告白しています。

ディスレクシアは、「知能は正常であったとしても、努力しても文字の習得がなかなか困難な障害」(宇野, 2019)です。この障害は、神経生物学的問題に起因しているとされていますが、詳しいことは未だよく変わっていません。ギリシア語の「できない」*dys*(ディス)と「読む」を意味する *lexia*(レクシア)を合わせた言葉由来しています。このうち、発達期、とくに文字学習が本格化する就学前後に明らかになる障害を「発達性読み書き障害(Dyslexia)」とし、交通事故などの後天性の脳損傷後に生じる成人や子どものディスレクシアと区別しています。ギリシア語の原語からすると、「読字障害」「難読症」という翻訳が考えられますが、これらの用語では、発達性の「読み」の障害が「書字」障害を伴わず単独で出現するかのような誤解を生むと宇野(2019)は指摘しています。

また、読者のみなさまは、学習障害(LD)という言葉も聞いたことがあるかと思います。学習障害(LD)は、教育分野では、「学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない。」(文部省, 1999)としています。「発達性読み書き障害」は学習障害の内、特に「読む」、「書く」に著しい困難を示す状態であると言えます。

一方、医学的な定義においては、アメリカ精神医学会によるDSM-5では、教育用語の学習障害に呼応するものとして「限局性学習症」または「限局性学習障害」という用語が使われていて、その下位分類に①読字の障害を伴うもの、②書字表出の障害を伴うもの、③算数の障害を伴うものの3つのタイプが示されています。また、WHOのICD-11では、「発達性学習症」その下位に、①読字不全を伴うもの、②書字表出不全を伴うもの、③算数不全を伴うもの、④他の特定される学習不全を伴うもの、⑤特定不能のもの、の5つのタイプが挙げられています。医学的な分類・診断基準では、「聞く」、「話す」といったコミュニケーションに関わる障害は含めずに、「発達性発話または言語症群」として別の用語が充てられている、という点が、教育分野での定義と異なっています。

2. 読み書きの困難の実際とその背景

実際の臨床像としては、読み書きの困難の有るお子さんの中には、算数の簡単な四則計算、筆算、図形の理解などに困難があるなど、複数のタイプが併せて見られるお子さんも多くいます。漢字が憶えられないことにも、九九が憶えられないことにも、その背景に、同じ要因が絡んでいる場合があります。どの要因が影響するのかは、子どもにより様々ですが、文字から音へ変換する処理や、単語がどのような音から構成されているかを頭の中で分析するなどの音韻処理の弱さがある場合もあれば、線の長さ、傾きや形や位置の把握といった視空間処理の弱さ、目で捉えた形の情報(はねる、曲がるなど)に合わせて手の動きを調節するといった目と手の協応動作の弱さ、不器用さ、ワーキングメモリ容量の少なさ、などといった要因が影響することもあります。

読み書き障害のある子どもの中には、文章を読む際に、文字がにじんだり、ゆらいたり、鏡文字になったり、文字がかすんだりといった見え方のする場合があります。

文字がにじむ

思い出して下さい、あなたの
クラスにこんな字はいま
せんでしたか、黒板をノートに
写し取るのに時間がかかる
子、ノートのマスから文字が
はみ出してしまふ子、本読み
がつまりつまりでしか読め
ない子、きつといたことと思

文字がゆらぐ

思い出して下さい、あなたの
クラスにこんな字はいま
せんでしたか、黒板をノートに
写し取るのに時間がかかる
子、ノートのマスから文字が
はみ出してしまふ子、本読み
がつまりつまりでしか読め
ない子、きつといたことと思

鏡文字になる

思い出して下さい、あなたの
クラスにこんな字はいま
せんでしたか、黒板をノートに
写し取るのに時間がかかる
子、ノートのマスから文字が
はみ出してしまふ子、本読み
がつまりつまりでしか読め
ない子、きつといたことと思

文字がかすむ

思い出して下さい、あなたの
クラスにこんな字はいま
せんでしたか、黒板をノートに
写し取るのに時間がかかる
子、ノートのマスから文字が
はみ出してしまふ子、本読み
がつまりつまりでしか読め
ない子、きつといたことと思

図1 ディスレクシア（発達性読み書き障害）のある子どもの文字の見え方の例
〔出典：（公財）日本障害者リハビリテーション協会〕

図1を参照頂くと、読み書き障害のある子どもが、実際にはどのような体験をしているのかの一端を想像頂けるかと思います。

「書き」については、「さ」と「ち」、「ン」と「ソ」、アルファベットの「b」と「d」、「p」と「q」など形の似ているひらがなやカタカナを間違える、鏡文字になる、漢字の細かい部分が認識できない、画数が多かったり、少なかったりする、偏と旁が入れ替わる・バランスが悪い、黒板の字をうまく写せないなどが有ります。

3. ディスレクシア（発達性読み書き障害）のある子どものための支援の実際

ひらがな、カタカナ、漢字、英単語等の文字や語彙の学習では、ひたすら何度も書く、ということよりも、形や意味を語呂合わせで覚えたり、ひも粘土で文字の形を作ってみたり、声に出して読んだりと多感覚を使う方法が効果的であると言われてています。

また、文部科学省の委託事業により、読み書きを支援するために、DASY教科書など、読み上げ機能などの付いた教科書等（音声教材）も複数開発されています。また、板書を手書きする代わりに、ワープロや音声入力を使ったり、写真を撮影することを許可したりして、書字の負担を軽減することもできます。書き順を動画でガイドし、漢字を間違えるとすぐにフィードバックしてくれ

る漢字ドリルアプリなども多数有ります。文部科学省のGIGA スクールの取り組みにより一人一台の端末所持が実現し、こうしたICT 機器を使用した支援も随分活用しやすくなりました。こうした機器を導入しやすくなるために、教師や周囲のクラスメートの理解を促進したりすることも、心理専門職の大事な仕事の一つであり、支援となります。

引用文献

文部省 (1999)「学習障害児に対する指導について(報告)」

学習障害及びこれに類似する学習上の困難を有する

児童生徒の指導方法に関する調査研究協力者会議、

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/002.htm（アクセス日 2023 年 2 月 7 日）

（公財）日本障害者リハビリテーション協会ホームページ、

読みの困難とマルチメディアデイジーの特長、

<https://www.jsrpd.jp/overview/daisy/>（アクセス日 2023 年 2 月 7 日）

宇野彰 (2019)「発達性読み書き障害とは」、宮本信也（編

著）『学習障害のある子どもを支援する』, 39-50pp.,

日本評論社、

青年期の「盗み」を巡って

— 自閉性スペクトラム障害の心理療法 —

太田 百合子

学校でクラスメートのお金を盗むことを複数回繰り返し、停学処分を受けていた、青年 A（来所時 18 歳）と出会ったのは、2 年前のことだった。A は幼少期、大学病院の小児科で自閉性スペクトラム障害の診断を受け通院していたが、中学以降は、母のみが年に何回か通院していた。今回の盗みをうけて転院を決意し、B クリニックを受診し、私が勤務する私設心理相談室を紹介されて来室した。

初回に両親と一緒に来室した A は、背が高いが、まだあとけなさが残る風貌で、意外な印象を受けた。私は、まず A のみと面接を行った。彼は頻繁にゲップをしながら、以下のことを語った。小学校から親のお金を盗むことがあり、それが現在まで続いていること。4 カ月前にも、親のお金を 10 万円盗み、その数カ月後には、クラスメートからお金を盗み始めたこと。また「盗みがいけないことはわかっているが、止めることは出来ないと思う」「ほしいと思うと歯止めがきかない」と述べ、反省している様子はあまりなく、内省力も非常に乏しかった。両親のみの面接も行った。両親は A の度重なる盗みに対して苛立っているようだった。A には、4 歳下の妹がいた。その妹は運動も勉強もでき、両親の期待が妹に向けられていた。その一方で、A については A は何やっ

てもダメ、何をやっても続かない」と述べ、A は家族のお荷物的な存在のようだった。

自閉性スペクトラム障害は、意識と無意識の区別すらない、マインドレスの原始的な心の部分が多く残存しているといわれる。A は自らの原始的な心の部分、特に攻撃性を扱いかねており、面接中に生じた A の頻繁なゲップは、未消化の攻撃欲求と関係していると思われた。それは、対象希求をめぐる無意識的攻撃性であり、妹だけに親の視線が注がれて、自分には向けられないことに対する怒りと、「盗み」が関連していると考えられた。

そのような見立てのもと、A と両親との各 30 分間の支持的な面接を行うことにした。次第に両親が A を受け入れ、A にも愛情を注ぐことができ始めたことで、A の「盗み」は消失した。そして、面接開始から 1 年半を過ぎる頃には、就職活動を始め、無事就職が決まり面接は終了した。

自閉性スペクトラム障害は、障害それ自体を変えることは困難であるが、その障害の状態の改善は、御本人への支持的な面接と共に、環境調整（家族支援）を通して促されることを、本事例を通して改めて教わったように感じている。

Staff Member

2022年度 発達臨床センター 臨床スタッフ

		月	火	水	木	金
専任教員	木部 則雄					午後
	宮本 信也	午後				
	波多江洋介					午後
	涌井 恵	午後				午後
	豊村かなみ	終日		終日	終日	終日
非常勤講師	伊藤 幸恵	午後				
	長沼佐代子	午後				
非常勤講師 兼 研究員	池上 雅子	午後				午後
事務職員	小椋 麻子	終日	終日		終日	終日
	笹森 倫代			終日	終日	
	松本 伸子	終日	終日	終日		終日

		月	火	水	木	金
研究員	貝塚 陽子					午後
	紺野 道子		午後			
	櫻井 千夏	午後				
	柳井 康子					午後
	太田百合子	適宜				
	杉沢 智子	適宜				
	千崎 美恵	適宜				
	中石 康江	適宜				
	松尾 伸子	適宜				

<顧問> 森永良子、寺山千代子、宮尾益知、緒方千加子、五十嵐一枝、秋元有子、秦野悦子

<研修生> 原山郁花、頓宮真由子、伊藤美乃、鈴木歌音

Editorial Note

編集後記

2023年5月8日から新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが、季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げることが決定し、岸田首相は「ウィズコロナの取り組みをさらに進め、家庭、学校、職場、地域、あらゆる場面で、日常を取り戻すことができるよう、着実に歩みを進める」ことを発表されまし

た。この3年間で激変した生活様式であるマスクの常時着用がもはや日常と化している中、発達臨床センターへいらっしゃる方が変化に戸惑うことなく、安心して来所できる環境の整備を引き続き検討していく必要があると思っています。

（豊村かなみ）